



今回は、前回のことばのQ&Aに続き、ことばやコミュニケーションを育てるために どの子にとっても望ましい接し方を『わが子の発達に合わせた「語りかけ」育児』を参考に、一部ご紹介します♪

はじめに…「語りかけ育児」ってなに？

※イギリスのSpeechTherapistであるサリー・ワードさんの書かれた本『Baby Talk』の日本語版の題です。

「語りかけ育児」は赤ちゃんから4歳までの子どもの発達をテーマとしながら、お母さん、お父さんに、ことばやコミュニケーションを促すような毎日のかかわりを分かりやすくお伝えするためのものです。障害のある子ども、発達の遅い子どもなど、すべての子どもに当てはまる普遍性と深さを持っています。年齢が小さくても、動きが幼くても、これから成長してゆくひとりの子どもをいつくしみ、大人にとって対等な仲間として大切に見守り育ててゆこうとする態度がその底に流れています。

最初にすべきことは子どもの状態をじょうずに読み取ること。子どもの行動を注意深く観察し、その行動の底にある意味（興味や気持ちのありよう）を読み、子どもの気持ちに沿った対応を心がける。

その内容はいたってシンプル。世界中の子育て上手な人が、昔から自然に行ってきた、子どもとの自然な関わりを楽しむ育児の提案です。

子どもは自分から育つ力を持っています。周りの大人にできるのは、その力が最大限にまで伸びるように手助けすることです。

7つのポイント

① 静かな部屋で

子どもの脳や聞こえの仕組みは未熟です。うるさい音の中で話しかけても、ちゃんと聞き取れないことも。

② ゆっくり、はっきり話す

口の動きを大きくして、ゆっくりとした話し方で、はっきり話すことが大事です。案外早口になってます。

③ くり返しを多く

小さい子は、3つの音節以上の音を覚えていられないことがあります。「いちご」の「ご」を聞く頃には、「い」と「ち」を忘れていて、「(いち)ご」なのか「(りん)ご」なのか分からなくなります。

「いちごだね。いちご」などと同じ言葉をくり返すことで、何の話をしていたのか、理解しやすくなります。

④ なるべく短い文で。話題の中心を強調する

長い文を話されても、子どもは聞く力や記憶する力が未発達でなかなか理解できません。はじめは2語文、2～3歳になっても3語文を目安に、短い文で話すことを意識しましょう。

⑤ ジェスチャーや実物を示しながら

言葉だけではすぐに忘れてしまうし、注意も移ってしまいやすいので、伝えたいことがちゃんと伝わらないことがよくあります。ジェスチャーや実物を見せると子どもは注目し、言葉をしっかり聞くことができます。指さしも話の主題をはっきりさせる上で役立ちます。

⑥ 行動のはじめとおわりをはっきりさせる

着脱や食事の際に「はい、履こうね（脱げたね）」「おもちゃを片付けよう！ごはんだよ」などと区切りを。

⑦ 子どもの「伝えたい」に応える

「語りかけ」以上に、子どもの気持ちや「伝えたい」という意欲を受け止めて、大人がちゃんと反応を返してあげることが、結果的にことばを豊かに育てていくのです。



参考文献：「語りかけ育児」サリー・ワード著 / 「子どもの発達に合わせたお母さんの語りかけ」中川信子著